



---

# 持続可能な教育のモニタリング グ 発達 目標

2022年12月14日、  
シリアのアレッポ市にあるユニセフの  
リハビリテーション教育施設であるアラビスタンスクールで  
幼児教育クラスに通う未就学児たち。

シリアでは  
長年にわたる紛争が子どもたちの教育に大きな打撃を与え、  
240万人の子どもたちが学校に通えず、  
さらに160万人が中退の危険にさらされている。

クレジット: UNICEF/UN0804872/Nader\*  
(写真等は、 原版 (英語版) を参照してください)

章

# 11

---

導入

## キーメッセージ

2022年6月までに、4カ国中3カ国が、2025年と2030年までに達成すべき7つのSDG4ベンチマーク指標に関する国家目標を達成することを約束しました。

---

2023年1月、UISとGEMレポートは、これらの国家目標に向けた各国の進捗状況を示す初の年次スナップショットであるSDG4スコアカード: 国家ベンチマークの進捗報告書を発表しました。

---

ベンチマークとデータを持っている国の中で、2025年のベンチマークを高い確率で達成する見込みがある国の割合は、後期中等教育修了率で29%、幼児教育参加率で43%でした。

---

貧しい国は学習に関して野心的すぎる目標を設定していますが、これはこの分野におけるデータと認識が不足していることの表れであり、一方、より豊かな国は達成レベルの低下を反映して、野心的ではない目標を設定しています。対照的に、各国が完了時に設定した目標は過去の傾向を反映しています。

---

国家ベンチマークプロセスは、説明責任を果たすだけでなく、形成することも目的としています。SDG4スコアカードでは、無償および義務の就学前教育に関する法律、資金調達、民間プロバイダーの規制という3つの政策を参照して、各国の幼児教育参加の進捗状況について議論しました。

---

2022年の変革する教育サミットは、国際協力の将来に対する国連事務総長のビジョンの一部であり、2024年の未来サミットに向けた一歩でした。これは、2015年以来、世界の教育カレンダーの中で最も重要なイベントでした。

---

すでに2015年の行動枠組に組み込まれている国家SDG4ベンチマークは、2022年の教育変革サミットに関する国連事務総長のビジョンステートメントの中で、そのハイレベルな成果を監視するメカニズムとして認識されました。

---

SDG4ハイレベル運営委員会の行動喚起は、加盟国に対し、2022年サミットの世界的な取り組みのうち3つのベンチマーク指標を特定し、国家目標を設定するよう求めた。

教育の緑化に関して、提案された措置は、カリキュラムの枠組みと初等中等教育のシラバスがどの程度気候変動を優先するかに焦点を当てている。

デジタル変革に関しては、既存の世界的なSDG4指標である学校のインターネット接続が提案された対策です。

青少年の参加に関しては、政府が青少年を教育政策の策定に参加するよう招待し、青少年団体が協議していることを確認する指標が必要となる。

2023年が先行の中間点となるため、持続可能な開発のための2030アジェンダの中で、今年のグローバル教育モニタリングレポートのモニタリング部分の主な焦点は、SDG 4の各目標による主要な傾向です。教育データには必然的に大幅な遅れが生じるため、最新の状況を提供することは常に困難ですが、この報告書が貢献したいいくつかの方法論の開発は、「ナウキャスト」、つまり、教育データについての合理的に信頼できる短期予測を行う能力を促進します。いくつかの主力指標。

しかし、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）のパンデミックによって教育データ収集プロセスが混乱した結果、これらのツールさえも試されることになった。学校閉鎖が教育システムに与える最終的な影響はまだ不明であり、今後数年間で明らかになるでしょう。これは特に学習の場合に当てはまります。学習では、潜在的な結果を評価できるようなこれほど大規模なショックは経験したことがありません。世界のより豊かな国々からの最初の証拠は、悪影響を記録しましたが、懸念されていたほど劇的ではありませんでした。しかし、長期にわたる学校閉鎖と限られた遠隔教育の機会という不幸な組み合わせを経験した国もある、世界の貧しい国々からの証拠はまだ出ていない。

いずれにせよ、学習成果に関するデータのギャップは依然として懸念の原因であり、世界的な行動が依然としてとらえどころのない領域である。

レポートの監視部分へのこの導入章では、4つの問題が提示されています。まず、国内のSDG 4 ベンチマーク プロセスに関する最新情報を提供します。これはおそらく、世界的な教育アジェンダのモニタリングを組み立てる上で最も重要な進展であり、他のセクターへの潜在的な教訓も含まれます。2番目に、2015年以降の世界的な教育カレンダーの中で最も重要なイベントである2022年の変革教育サミットについて説明します。このサミットでは、ベンチマーク プロセスに基づいて、新たな教育の課題やモニタリングについての考察が促進されました。第三に、レポートの監視部分の主要な特徴のいくつかと、それと今年のテーマであるテクノロジーとの関連性を示しています。

最後に、2015年以降のGEM レポートの成果の概要を示し、2030年目標に向けた進捗状況を解釈する際に自由に使える複数のリソースを読者に案内します。

#### 国家 SDG 4 ベンチマーク

プロセスはマイルストーンに到達しました

国連（UN）事務総長が2014年に各国に「進歩のためのベンチマーク」に基づく「責任を共有する文化」を受け入れるよう求めたことに触発され、教育2030行動枠組のパラグラフ28は各国に対し「適切な中間教育」を確立するよう求めていた。ベンチマーク…長期目標に伴う説明責任の欠如に対処するためのもの。

GEM レポートとユネスコ統計研究所（UIS）は、この取り組みを現実にするために2018年に活動を開始しました。

このプロセスには、進歩を示す3つの重要な兆候がありました。まず、2019年8月に、ベンチマークのために7つのSDG 4指標が選択されました。学校外料金。完了率。修了率における男女差。読解力と数学の最低習熟率。訓練を受けた教師。そして公教育支出。この展開は、SDG 4 データダイジェスト 2021 レポート（UIS および GEM レポート、2021年）に収録されました。

第二に、2021年10月と2022年6月までの2段階で、4か国中3か国が、2025年と2030年までに達成されるこれらの指標に関する国家目標を達成することを約束しました。これらのベンチマーク値は、ある概念を使用して、共通の教育目標に対する国家が決定した貢献度を定義します。気候変動分野に受け入れられています。これにより、各国の出発点と教育セクターの計画を認識し、状況に応じた進捗状況の監視が可能になり、国の教育課題を地域的および世界的な課題と結び付けるのに役立ちます。これらの展開は、2022年のハイレベル政治フォーラムと変革教育サミットで発表された「コミットメントの設定」レポートで説明されました（UIS および GEM レポート、2022年）。

第三に、2023年1月にマイルストーンに達しました。国家目標に向けた各国の進捗状況に関する最初の年次スナップショットが公表されました。「SDG 4 スコアカード：国家ベンチマークの進捗報告書」と題されたこの最初の報告書は、国際教育データを記念する年次シリーズとなる予定であり、4つの寄稿を行っています（UIS および GEM 報告書、2023年）。

まず、2000年から2015年までの過去の進捗率、つまりベンチマーク指標値の変化が開始点に応じてどのように変化したかを分析します。この分析は、各国が進歩を加速するか、「通常通り」のペースで進むか、あるいは水準を下回った場合にどのような成果を達成するかを示す尺度を提供した。

第二に、スコアカードは、ベンチマークデータベースを構築するためにUISがとった手順を説明しており、ベンチマークプロセスと国家教育セクター計画の豊富な情報をサポートするという強い政治的意志を強調していますが、指標の定義とデータソースに関するコミュニケーションの継続的な課題も浮き彫りにしています。。

第三に、2025年までに国家目標を達成する可能性の観点から各国の進捗状況を分類します。たとえば、ベンチマークとデータがある国では、後期中等教育修了率が29%、初等教育の1年前の組織的学習への参加率が43%で、2025年のベンチマークを高い確率で達成する見込みでした。この報告書はまた、2015年から2020年の国の進歩が、同様の時点からスタートした平均的な国の2000年から15年の歴史的な進歩率とどのように比較されるかも示している。

第4に、スコアカードは、ベンチマークの報告が目的ではなく、各国が互いに学び合うプロセスの始まりでなければならないと明確に表明しています。

“  
ベンチマーク値は、気候変動分野で採用されている概念を使用して、共通の教育目標に対する国家が決定した貢献度を定義します。  
”

ベンチマークのプロセスは、各国が教育開発にとって重要な2つの目標を達成できるように設計されています。1つ目は、各国が国家目標の質を反映し、政策と計画に役立つように改善するのを支援することです。このプロセスの一環として、UISとGEMレポートによってすべての国に指標となる「実現可能な」ベンチマーク値が提供されました。これらの値は、最も速い25%の国の歴史的な速度で成長した場合、2025年と2030年までに各国がどのような状況になるかを示しています。

各国が設定したベンチマーク値と、実現可能なベンチマーク値をどのように比較するかを検討することは、各国がベンチマークを設定する際に直面する課題を理解するのに役立ちます。ベンチマークと実現可能なベンチマークとの間の大きな乖離は、例えば初等教育終了時の読解など、最低限の習熟度レベルで見られます(図11.1a)。平均して、開始値が低い国は実現可能なベンチマーク値で示されるよりもはるかに野心的ですが、開始値が高い国はそれほど野心的ではありません。これは、この指標が2015年に教育監視の枠組みに追加されたばかりであるためである可能性があります。貧しい国にはデータが不足しており、この分野の進歩についてあまり馴染みがありません。

対照的に、より豊かな国は、

過去20年間にわたって国家を超えた評価を行っており、指標とその進捗状況についてはよく知っています。実際、初期学習レベルが高い(生徒の70%以上が最低限の習熟度を達成している)裕福な国の指標レベルは、2000年から2015年にかけて平均して低下しており(第12章)、これらの国が国家目標の設定により慎重になっている理由を説明している可能性があります。ターゲット。

対照的に、完了率(各国にとってはるかに馴染みのある軌跡を示す指標)の差異はかなり小さくなっています(図11.1b)。繰り返しになりますが、開始値が低いいくつかの国は野心的すぎました。これは、国家目標設定における彼らの経験不足または前例の欠如によって説明される可能性があります。しかし、この指標について学習ほど意欲的に取り組んでいる国はほとんどありません。

2番目の目的は、指標のレベルと進捗状況を、各国が実施する必要のある政策と結び付けることです。SDG4スコアカードの各エディションは1つのベンチマーク指標に焦点を当てています。最初の調査では、初等教育の1年前の組織的学習への参加率を調べています。この論文では、無償および義務教育の就学前教育に関する法律、公的教育資金調達、および民間プロバイダーの規制という3つの政策を参照して国の進歩について議論しています。

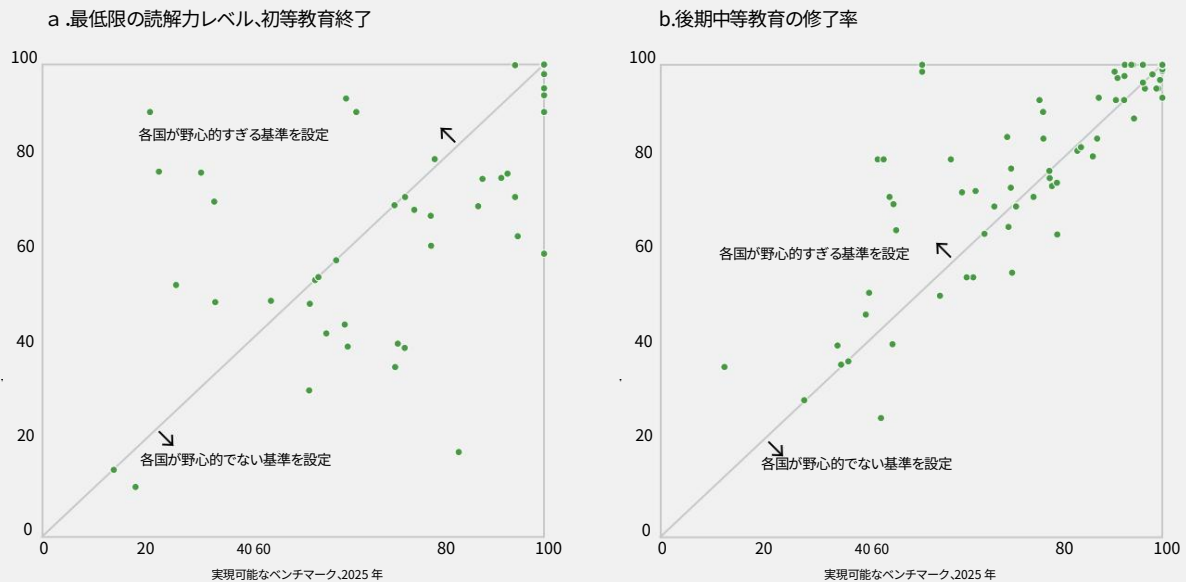
アルメニアでの3年間、ウズベキスタンでの4年間、アゼルバイジャンでの3年間、そしてその後5年間の無料教育の導入は、参加率の大幅な増加と関連している(第13章)。支出がGDPの0.25%から0.50%に倍増すると、公的機関への参加率が平均20%から60%へと3倍になります。また、幼児教育参加率は、私立幼稚園の料金設定規制がある国では7パーセントポイント高くなっています(UISおよびGEMレポート、2023年)。

今後数年間でさまざまな課題に取り組む必要があります。各国は、不足している教育目標を設定し、国家指標と世界指標の間の整合性の欠如に対処するための支援を必要としています。対話と能力開発のプロセスが推奨されます。最後に、各国は各国のベンチマークに新型コロナウイルス感染症の潜在的な影響を組み込む必要がある。

要約すると、GEMレポートは、2015年に合意された、教育への普遍的なアクセス、重要な最低限のインプットの提供、関連する学習成果の達成という目標に向けた進捗状況に関する世界的な最新情報を提供しています。国家SDGを通じたUISとのパートナーシップ4ベンチマークプロセスは、国の出発点と計画に密接に関連した方法で進捗状況を監視および評価する方法について新しい視点を提供します。どの国にとっても公平です。そして、国、地域、世界的な取り組みの間のギャップを埋めるのに役立ちます。

図 11.1: 各国は修了

率については現実的なベンチマークを設定しているが、学習に関してはそれほどではない  
2025 年の実際のベンチマークと実現可能なベンチマークの比較



GEM StatLink: [https://bit.ly/GEM2023\\_ig11\\_1](https://bit.ly/GEM2023_ig11_1)

注: 実際のベンチマークは、2025 年に向けて各国が設定したベンチマークです。実現可能なベンチマークは、2000 年から 2015 年に観察された最速の国 25% の歴史的な速度で改善した場合に、各国がどのような状況になると予想されるかを推定します。

出典: SDG 4 ベンチマーク データベースに基づく UIS および GEM レポート (2023)。

## 変革のフォローアップ

### 教育サミットの約束

国連加盟国が国連創設75周年を記念する宣言（「UN75宣言」）を採用した際、国連事務総長は国際協力の将来のビジョンを概説するよう求められた。彼の報告書「私たちの共通の課題」は、「私たちの未来がどうあるべきか、そしてそれを確保するために今日何ができるかについて

て、新たな世界的合意を形成する」という2024年の未来サミットに向けた第一歩として考案された（ユナイテッド航空）ネイションズ、2021）。持続可能な開発のための2030アジェンダは国際的な野心の範囲を捉え、その実現のための枠組みとメカニズムを提供しますが、私たちの共通のアジェンダは

この議題の実現に対する障害に対処することを目的としました。国連事務総長は教育を優先事項としており、未来サミットに向けたプロセスにおける重要なステップは、「教育における世界的な危機に対応して、2022年9月に開催された変革教育サミット（「サミット」）であった。 - 公平性と包括性、品質と関連性の1つ。

このサミットは、教育を世界的な政治課題の最上位に押し上げ、行動、野心、連帯、解決策を活性化して、次の2つの目標を達成することを目的としていました。

新型コロナウイルス感染症による学習損失を軽減し、急速に変化する世界で教育を変革する種を蒔きます。その準備の一環として、150人以上の教育大臣が2022年6月にパリのプレサミットに集まり、そこでは5つのテーマ別行動トラックに沿って議論が組織された。生活、仕事、持続可能な開発のための学習とスキル。教師、教育、教職。デジタル学習と変革。そして教育融資。サミット自体の主な成果は、以下に関連する7つの世界的な取り組みでした。基礎学習。男女平等。緑化教育。デジタル変革。教育融資。そして若者の参加。

モニタリングの観点から、サミットでは、SDG 4の目標とモニタリングの枠組みを世界的な取り組みで表明された優先事項とどのように一致させ、政策対話に情報を提供するために成果を報告するかという課題が提示された。

2つのステップが取られました。まず、国連事務総長は、教育変革サミットでのビジョン・ステートメントの中で、「現在の監視体制を取りながら、教育の変革と資金提供に対する政治的説明責任を強化する方法」を求めました。



世界教育会議や国内のSDG 4 ベンチマークプロセスを含むSDG 4 の実施を次のレベルに引き上げる』(国連、2022)。  
したがって、2015 年の行動枠組に組み込まれている国家SDG 4 ベンチマークは、2022 年の教育変革サミットのハイレベルな成果を監視する基礎としても認識されました。

第二に、SDG 4 ハイレベル運営委員会（ハイレベル運営委員会、2022 年）によって行動喚起が発令されました。この呼びかけでは、サミット中に提案された7つの世界的取り組みのうち、緊急事態における教育、基礎学習、男女平等、教育資金の4つを監視するために、選ばれたSDG 4ベンチマーク指標が適切であることが認められた。さらに、各国に対し、次のような国内SDG 4ベンチマークプロセスを構築するよう求めました。

7つのSDG 4 ベンチマーク指標のリストに追加される、他の3つの世界的取り組み(グリーン化教育、デジタル変革、若者の参加)のそれぞれについて指標を設定することに同意。

これらの指標について2025年と2030年の国家目標を設定します。これは、教育変革サミットから各国が意図する成果を表します。

2022年12月の会合で、ハイレベル運営委員会は、教育のグリーン化、デジタルトランスフォーメーション、青少年と学生の関与に関する指標を既存のSDG 4ベンチマーク指標の枠組みに追加することを決定しました(図11.2)。これら3つの世界的な取り組みのベンチマーク指標に関する予備的なアイデアが、SDG 4 指標に関する技術協力グループに提案されました。

4つの側面(学校、学習、教師、コミュニティ)から構成される取り組みである緑化教育に関連して、主な指標提案は、関連する政策文書の分析に基づいて気候変動をカバーする国家の意図の尺度です。この指標は、133か国の170以上の国家カリキュラムの枠組みのキーワード検索に基づいてすでに推定されています。初等中等教育の科学および社会科学のシラバスからさらに詳しい情報が追加される予定です。

デジタル変革の観点から見ると、この世界的な取り組みは、コンテンツ、容量、接続性の3つの側面で構成されています。すべての側面を包括的にカバーできる指標はありませんが、学校のインターネット接続には、既存の世界的なSDG 4指標(4.a.1)であるため、各国によって監視され、国際レベルで報告されているという利点があります。今後数年間で、インターネットサービスプロバイダーからの情報を追加するなど、指標の入手方法が改善される可能性があります。

青少年の参加に関する世界的な取り組みに関する潜在的な指標には、まず政府が教育政策策定評議会または青少年の代表を含む関連機関を持っているかどうかを報告することが含まれる。第二に、青少年団体は、そのような評議会や団体の積極的なメンバーであり、教育政策の策定において諮問を受けているかどうかを報告します。

### 図 11.2.教育変革

サミットの優先事項が SDG 4 のモニタリングおよびベンチマーク指標のフレームワークに統合されました

教育変革サミットのグローバルな取り組みと SDG 4 の目標およびベンチマーク指標との連携

SDG4モニタリングフレームワーク			
SDG4目標	ベンチマーク指標	グローバルな取り組み	
4.1	基礎教育	1. 不就学率 [4.1.4]	緊急時の教育
		2. 完了率 [4.1.2]	基礎学習
		3. 学習熟度 [4.1.1]	
4.2	幼少期	4. 予備予備参加 [4.2.2]	
4.3	TVET/高等教育/成人教育		
4.4	仕事に役立つスキル		
4.5	資本	5. 修了における男女格差 [4.5.1]	男女平等
4.6	成人の読み書き能力		
4.7	持続可能な発展	たす	緑化教育
4.a	学習環境	たす	デジタルトランスフォーメーション
4.b	奨学金		
4.c	教師	6. 訓練を受けた教師 [4.c.1]	
FFA	ファイナンス	7. 公教育支出 (i) 総支出の割合 (ii) GDP の割合 [FFA1/2]	教育融資
		たす	青少年の参加

GEM StatLink: [https://bit.ly/GEM2023\\_ig11\\_2](https://bit.ly/GEM2023_ig11_2)

注:太字の指標は7つのベンチマーク指標です。FFA: 行動の枠組み。TVET: 技術および職業教育と訓練。

出典: UIS および GEM レポート (2023)。

## 2023年GEMレポートのハイライト 監視部

前述したように、2023 GEM レポートのモニタリング部分の最初の目的は、2030年の目標に向けた進捗状況の簡潔な測定値を提供することです。各章のボックスには、少なくとも1つのグローバル指標のそのような進捗状況のスナップショットが表示されます。本文の残りの部分では、他の世界的およびテーマ別指標の動向を分析します。

2023 GEM レポートのモニタリング部分の2番目の目的は、テーマ部分に関連するターゲットごとに1つ以上の問題を特定することです。これらの重点セクションは、教育におけるテクノロジーのテーマとさまざまなリンクを作成します。

一部の重点セクションでは、デジタルテクノロジーの側面を検討します。たとえば、テクノロジーがライティングスキルの定義にどのような影響を与えるか（フォーカス 12.1）、スクリーンタイムの代替としての幼児教育における屋外での積極的な遊び（フォーカス 13.1）、オンラインテクノロジーによって促進されるマイクロレディンシャルなどの問題に注目しています。伝統的な高等教育（焦点 14.1）、スキルの需要と供給に対する人工知能技術の潜在的な影響（焦点 15.1）、社会的および感情的な学習への注目の高まりと、それに関する理論が教育技術にどのように影響を与えるか（焦点 18.1）、およびその役割国際的な奨学金への関心を理解するためのオンライン検索の使用に関するアプリケーションを使用して、教育トレンドを特定するためのビッグデータの利用（焦点 20.1）。

広範な分析により、GEMレポートチームが低・下中所得国がSDG 4の国内基準を達成するには資金不足を埋める必要があると推定している資金不足が示されており、各国が目標4を達成した場合にその不足がどのように拡大するかについての新たな証拠も示されている。野心を高める3つのシナリオに基づいて、教育におけるデジタル変革のコストをカバーします（第22章）。

焦点の1つは、テクノロジーが教育にどのように影響するかではなく、教育がテクノロジーの導入、調整、開発にどのような影響を与えることができるかに関連しており、科学、技術、工学、数学の教師の不足を調査しています（焦点 21.1）。

4つの焦点セクションでは、情報と通信以外のテクノロジーに焦点を当てています。建設と校舎（焦点 19.1）、エネルギーとソーラーパネルによる学校の電化ギャップの解消（焦点 19.2）、交通と通学の影響（焦点 19.3）、学校給食の改善につながる農業（焦点 12.2）。

最後に、他の焦点セクションでは、テクノロジーとは無関係の選択された関心のある問題、つまり第一世代の生徒に重点を置いた親の教育に基づく不平等（焦点 16.1）、読み書き能力によって読書速度の重要性（焦点 17.1）、および低・低中所得国における差し迫った債務危機の潜在的な影響（第22章）。

## GEM レポートは単なるレポートではありません 報告

今日の世界は、ユネスコが主催し発行する編集上独立した報告書として「万人のための教育世界監視報告書」を設立する決定が下された 2001 年とは大きく異なります。2015年に、持続可能な開発のための2030 アジェンダにおける教育の進捗状況を監視する義務を世界教育監視報告書に与えることが決定されて以来、この状況は大きく変わりました。この変化は、報告書が機能する枠組みを提供する政治的、社会的、経済的、環境的課題に関連しているだけではありません。それらはまた、教育に関する報道に利用できる情報の量が増えたこと、視聴者がそのような情報を受け取ることに慣れているチャンネルの数が増えたこと、そしてこれらのチャンネルがもたらす声の多元性にも関連しています。


研究と権利擁護という二つの機能を組み合わせるために最初から設計された報告書にとって、何を提供すべきかについての期待も変化しています。

GEM 報告書は、その任務がすべての国およびすべての教育レベルの普遍的な教育課題をカバーするように拡大されたため、同じままではいられませんでした。同社は、一定の資源範囲内での成果の焦点と形式に基づいて、2019年から2024年の戦略を策定しました。この戦略では、2つの優先事項を設定しています。1つは、真に世界的な教育報告メカニズムとなるという拡大された使命を果たすと同時に、その成果とコミュニケーションチャンネルを調整して、政策変更に影響を与える機会を増やすことです。

現在、GEM レポートは単なるレポートではありません。それは、世界的および地域的な、いくつかの対象を絞ったケースでは全国的なものまで、さまざまなリソースを提供します。モニタリングと定量的だけでなく、テーマ別および定性的でもあります。成果と結果に関する指標だけでなく、法律や政策に関する指標も含まれます。印刷物とオンライン。静的かつ対話的。さまざまなテーマごとに整理されています。さまざまな設定で提示されます。そしてさまざまなチャンネルを通じてコミュニケーションされます。出力は互いにフィードし、互いに情報を与えます(図 11.3)。この拡大は、この相乗効果と一貫性によって可能になっただけでなく、世界中の献身的な組織グループとの貴重なパートナーシップのおかげでもあります。

図 11.3:






GEM レポートは単なるレポートではありません  
問題、焦点、チャネルごとのグローバル教育モニタリング レポートの出力

問題	テーマ別	地域別
SDG4の連携		
ファイナンス		
アクセス		
	法律と政策に関する各国の概要	地域レポート
公平性と包括性	 <b>PEER</b> www.education-pro iles. 組織	2019 年アラブ諸国レポート
		資金調達における資本性 SUMMAおよびユネスコサントンティアゴとの2020年ラテンアメリカカリブ海報告書 2021 年中東ヨーロッパ、コーカサス、EASNIEおよびNEPCによる中央アジアレポート
学ぶ		2022-25アフリカ連合および ADEA との基礎学習に関するアフリカ スポットライト シリーズ
品質	性教育 ユネスコ	テクノロジー SEAMEOによる2023年東南アジアレポート 2024年太平洋レポート コモンウェルス・オブ・ラーニングとの連携
持続可能な発展	気候変動教育 MECCEプロジェクトとの連携	学校の指導者 OEIによる2025年ラテンアメリカレポート
ガバナンス		私的行為者規制 CPR、CSF、BRAC、IIDS、および ITAとIPS

GEM StatLink: [https://bit.ly/GEM2023\\_ig11\\_3](https://bit.ly/GEM2023_ig11_3)

注：ピンク枠はグローバル教育モニタリングレポートを示します。青い枠は GEM レポートのオンライン リソースを示します。黒枠はその他の GEM Report 発行物を示します。

出典: GEM レポート。

グローバル	監視		
 <p>UIS を使用した国家 SDG 4 ベンチマーク</p>	 <p>GPE 結果の第 1 章 UIS によるレポート</p>	<p>GEM レポートは、SDG 4 のハイレベル ステアリングのデータおよびモニタリング機能領域の共同議長を務めています。 UIS との委員会</p>	<p>ハイレベルの政治フォーラムのレポート 約束の達成、約束を超えて、コミットメントの設定</p>
 <p>監視部 SDG 4 目標ごとに 1 章 統計表</p> <p>財務章 補助台</p>	 <p>スコープファイナンス <a href="http://www.education-progress.org">www.education-progress.org</a></p> <p>スコープアクセス</p>	 <p>教育金融ウォッチ 世界銀行およびUIS との協力</p>	<p>SDG 4 原価計算モデル</p>
<p>テーマ部分 背景資料</p>		 <p><a href="http://www.education-estimates.org">www.education-estimates.org</a> 完了率 UIS を使用した場合の学校外料金</p>	 <p><a href="http://www.education-inequalities.org">www.education-inequalities.org</a> (UIS 付き) アクセスインジケター</p>
<p>2019 年の移住と避難</p>	<p>SCOPE 資本</p>	<p>複数のデータを使用して推定された 2 つの重要な指標ソース</p>	
<p>2020 年の包含</p>		<p>学習指標</p>	
<p>2023 年のテクノロジー</p>	<p>スコープ学習</p>	<p>教育格差データベース</p>	
<p>2024/5 リーダーシップ</p>	<p>スコープの品質</p>	<p>インタラクティブな SDG 4 モニタリング</p>	<p>コミュニケーションと権利擁護</p>  <p>発売イベントとプレゼンテーション ビデオ、アニメーション、インフォグラフィックス 印刷物、電子メディア、ソーシャルメディア</p>
<p>2016 人と地球</p>			
<p>2017/8 説明責任</p>			
<p>2021/2 非国家主体</p>			
<p>青年編</p>			
<p>性別編</p>			
<p>政策文書</p>			

注: ADEA: アフリカ教育開発協会。CPR: 政策研究センター (インド)。CSF: セントラルスクエア財団 (インド)。  
EASNIE: 欧州特別支援およびインクルーシブ教育庁。IIDS: 総合開発研究所 (ネパール)。  
ITA: イダラ・エ・タリム・オ・アガヒ (パキスタン)。IPS: 政策研究所 (スリランカ)。MECCE: 気候コミュニケーションと教育の監視と評価。  
NEPC: 教育政策センターのネットワーク。OEI: イベロアメリカ州の組織。SEAMEO: 東南アジア教育大臣組織。概要: ラテンアメリカおよびカリブ海地域の教育研究とイノベーションの研究室。UIS: ユネスコ統計研究所。